

「また、なんで、あす食^くう米にも困^{こま}っているというのに。」

「少しぐらい勉強ができるからといって、その日ぐらしの百姓の子が、高等小学校へ行くなんて、身のほど知らずに、あきれてしまう。」

「早く働かして、お金をとる考えでも、したらいいのにさ。」

村人たちは、寄るとさわるとこの話で、もちきりでした。

清作とシカも負けてはいません。

「ぼくの高等小学校での目的は、勉強することだ。友だちに勝てるのは、頭しかないんだ。左手が不自由でも、貧しくとも、一番になってみせる。」

「これからは、学問が第一だ。清作には、学問しかないんだ。」

と、がんばりました。

清作は、猪苗代の尋常科^{じんじょうか}からいつも一番だった級友をぬいて、一番になりました。十二キ口もはなれた三城瀉^{さんじょうがた}から通ってきている清作が、一番になるなん